

日田地域研修

大阪府済生会中津病院

研修医 藤 並 舞

2011年8月、私は大分県日田市にある済生会日田病院で地域研修をさせて頂いた。日田は天領で栄え交通の便も良く、気候は雨が多く冬は時に大雪になることもある。そのような所で私は地域医療の2つの側面に接した。

1つ目は拠点病院としての地域医療である。診療所と大病院とを繋ぐことも大きな役割であるが、地域の病院はその土地に住む人々を出来る限り自分の病院で治療する責任がある。医療者はスペシャリストでありジェネラリストでなければならず、また、医療従事者は一丸となって治療を行っていく必要がある。

病院が遠く時間もないため医療を受けられない患者に対しては、待つだけでなくこちらからチームで巡回診療を行い、積極的に関わっていく。彼らの生活と折り合いをつけ、検査や治療の計画を立てる。彼らの生活を十分に尊重しつつも診療していくことが要求されるのである。

2つ目はプライマリ・ケアの原点としての地域医療である。上津江という所で、先生は恐れられながらも信頼されていた。感冒、咬傷、脳血管障害：あらゆる疾患が来る。コミュニティ内の全員

を主治医として診察し、診断し、治療しなければならない。土地柄高齢者が多く、食事は塩分を過量に摂取しがちで殆どの患者が高血圧を抱えている。全体的な傾向を把握し、各々の状態を診て、コミュニティの健康を守っていく。その土地に住む人々の生き様を理解しつつ、しかし入れ込みすぎることなく医療を行う：簡単なことではない。

今まで、病院は人々にとって非日常であるという感覚があり、患者の生活に深く介入することが少なかった。しかし、医療が人々の生活に根ざしていること、土地により責任と役割が異なり、その土地ならではの医療の在り方があることを今回の地域研修で教わった。この経験を基に、自分が働く病院や診療所ではどのような医療を提供できるのか考えながら、患者と関わっていきたいと思う。